

宛先



# ニューズレター

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

No. 80

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/lora/index.html>

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/ialt/index.html>

平成27(2015)年 3月19日

## 第3回 月例勉強会の開催

平成27年1月16日(金)に第3回目の月例勉強会を佐賀県自治会館で開催しました。今回は高森 洋氏(株式会社WASC基礎地盤研究所、代表取締役)に「佐賀低平地地盤における住宅の



高森 洋氏

不同沈下」と題した話題をご提供いただき、31名の参加者とともに議論が交わされました。

住宅建築後に発生する問題の一つとして不同沈下があり、補償問題に発展する事例が紹介されました。一方で、軟弱地盤を持つ佐賀低平地では、不同沈下が発生するものとして、修復の余地を残した施工が行われるので損害賠償にまで発生するトラブルが少ないというユニークな特徴があるそうです。同氏はトラブルを最小限にするためには、地盤調査や指針の意味を理解して施工を行うことに加え、不同沈下に対する施主の理解も重要であると述べられました。

## 第14回 コミュニティデザインカフェ 「木質による建築デザインの未来」

1月29日(木)、佐賀大学地域連携デザイン工房にて「木質による建築デザインの未来」をテーマとして第14回コミュニティデザインカフェを行いました。参加者は54名でした。第一部では、稲山正弘氏(東京大学大学院農学生命科学研究科・教授)を招き、6mを最長とする流通材でいかに中大規模の木造建築を実現するか、最新の研究と実践についてお話いただきました。その後、建築家赤松佳珠子氏も交え、近作(佐賀市高伝寺涅槃塔他)を紹介しました。

第二部では、佐賀大学理工学部都市工学科における設計演習課題「地域に根ざす学校」の作品講評会を行いました。例年と異なる点として、ディテールまでを半年かけてデザインしており、講師からも高い評価を受けました。



## 水専門部会

### 気候変動と自然災害に関する講演会を開催

2月6日(金)、環境水理学がご専門の小松利光先生(九州大学特命教授)をお招きし、講演会「気候変動下の自然災害に対する実践的適応技術の開発」を開催しました。



小松 利光 先生

小松先生は水・土砂災害の第一人者です。講演では、過去の土砂災害の事例を示しながら「現在の災害外力と防災力の間にはギャップがある」と警鐘を鳴らし、順応的適応策などを紹介しました。そして、「佐賀県のような低平地はリスクの高い土地。すぐにもでも災害に関する問題に取り掛かってほしい」と激励されました。佐賀大学理工学部で行われた講演会には30人を超す方々が参加し、熱心に耳を傾けていました。

この講演会は、低平地研究会水専門部会ならびに佐賀大学プロジェクト研究所・地域防災研究所による主催、佐賀大学工学系研究科都市工学専攻および低平地沿岸海域研究センターの共催によって開催されました。

## 低平地研究に関する豆知識 -その17-

### リスク2 一治水に関するリスクー

リスクの定義は、分野によって様々です。端的には、 $リスク = (発生確率 \times 発生による被害)$  のように考えるとわかりやすいでしょう。1年か2年に1回、頻繁に氾濫するような川の近くに家を建てること（住むこと）は困難ですので、宅地以外で氾濫を前提とした土地利用を考えるとと思います。この場合、家や生命に対する被害はゼロです。農地であれば、氾濫時に農作物の損害は発生することになります。このような場合、安全度は低いが生命や家の損失は発生しないので、このときのリスクはゼロに近い、もしくは経済的なリスクは低いともいえます。一方、氾濫対策を講じた結果、河川の氾濫度合い（発生確率）が低くなれば、安全度が高くなり、地域によっては長い間に都市開発が進むことに繋がり、場合によってはかえってリスクが高くなることもあり得ます。リスクは、よくないこと（災害）が発生した後のことが対象となります。安全度は、発生しないようにすることを前提とする考え方ともいえるでしょう。安全と安心とは異なるものとして表現される所以かもしれません。

(佐賀大学名誉教授・古賀憲一)

### 暮らしと文化専門部会 講演会の開催

2月6日（金）、佐賀商工ビルにおいて岡本義彦氏をお招きし、「低平地佐賀のまちづくりに今求められていること」と題して講演会を行いました。

講演では、民間企業の営業マンとして世界で活躍されてきた講師から、営業での実体験をもとに製品や交渉、企業誘致などについて詳しく語っていただきました。

特に企業誘致については、先を読むこと、人との関わり方が大切であるとお話ししてくださいました。受講者からは、まちづくりにおいても人と人との関わりの重要性を再認識したとの感想が聞かれ、有意義な講演会となりました。



## 会員 特別会員 動向 神崎市役所

筑後川源流域の自然環境の保全や流域の住民の交流促進を目的として、筑後川源流の碑が神崎市脊振町の高取山公園に建立され、平成26年12月6日に同公園内で除幕式が開催されました。



筑後川源流の碑  
(神崎市脊振町)

松本市長による挨拶の後、約80名の出席者全員で源流の碑と案内板の除幕式が行われました。また、式典の後は川や水についての勉強会や子どもたちによる門松づくり体験教室など様々なイベントが催され、参加した流域住民の交流を深める機会となりました。

### 低平地研究会

#### 活動報告会・特別講演会のご案内

4月16日（木）に平成26年度低平地研究会特別講演会ならびに活動報告会を開催します。

活動報告会では、各専門部会長から平成26年度の部会活動について報告が行われます。

コーヒーブレイクの後に、特別講演会が開催されます。本年度は下山正一氏（九州大学大学院理学研究院助教）をお招きし、「地層から探る佐賀平野のなりたち」と題してご講演いただきます。夕刻からは、佐賀大学内の食堂にて懇談会も開催されます。

会員の皆様方のご参加をお待ちしています。

#### <活動報告会>

日時：4月16日（木）13:00～15:10

場所：佐賀大学本庄キャンパス

理工学部6号館 DC棟階多目的セミナー室

#### <特別講演会>

日時：4月16日（木）15:30～17:00

場所：同上

講師：下山正一氏（九州大学大学院理学研究院助教）

演題：「地層から探る佐賀平野のなりたち」

#### <懇談会>

日時：4月16日（木）17:30～20:00

場所：佐賀大学生協かささぎホール

#### 編集後記

今年は梅の花を運良く撮影できましたので、冒頭に掲載しました。梅の花を写真に撮影してじっくり観たのは初めてのようです。

編集：三島（佐大:sk9822@cc.saga-u.ac.jp） 江頭、日野